## 【授業科目】精神看護学特論Ⅰ（基礎的理論）　Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅰ

| 担　当　教　員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | オフィスアワー |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大西 信行 | １年次<br>前　期 | 選　択 | ２ | ３０ | 講　義 | 巻末<br>掲載 |

| | |
|---|---|
| 授業概要<br>（内容と進め方）<br>及び<br>課題に対する<br>ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法 | 精神保健・人間理解に関する諸理論と心の健康を理解する。メンタルヘルスケア及び精神看護学、精神保健領域、人間関係における理論や方法論を実践の場で適用する能力を高める。精神の健康状態を全人的に評価・アセスメントする方法及び実践のための看護アプローチの方法を学ぶ。ディスカッション、プレゼンテーション、を通して理解を深める。様々な理論モデルを理解し、対象や現象に合わせたアプローチの理論的枠組みについて修得する。授業は実務家教員（大西）が進める。<br>課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／討議、プレゼンテーションを通して、ピアおよび教員からコメントをする。 |
| 授業の<br>位置づけ | 本大学院のディプロマ・ポリシー①③④の達成に寄与している。 |
| 到達目標<br>（履修者が到達<br>すべき目標） | 1. メンタルヘルスケア及び精神看護学領域における看護実践の基盤となる理論と技法、およびその背景を学び、活用する方法を修得する。<br>2. 精神の健康状態を全人的に評価・アセスメントする方法及び実践のための看護アプローチの方法を修得する。<br>3. メンタルヘルスに問題をもつ対象や精神疾患患者に対する援助方法・治療的介入技法、理論的背景を理解し、その活用を検討することができる。 |
| 時間外学習に必要な<br>内容・時間 | 義前に指定された、資料や文献に目を通しておくこと（各１時間）。<br>課題に関連した文献レビューを行い、プレゼンテーションに臨む（各３時間）。<br><br>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。 |
| 授業計画 | 1.～2. 精神の構造と心の健康について<br>・精神力動論として、無意識、心的決定論、転移・逆転移等について文献を通して理解する。<br><br>3.～6. 精神看護に関する看護理論<br>・対人関係理論<br>ペプロウ、オーランド、トラベルビー<br>・セルフケアに関する理論<br>オレム・アンダーウッドモデル：統合失調症への看護援助、気分障害患者への看護援助<br>（プレゼンテーション）<br><br>7.～11. アプローチの理論と実際<br>・個人療法、集団療法、カウンセリング、家族療法<br>・認知行動療法<br>・心理教育<br>・短期療法・長期療法<br>・グループダイナミクス<br>（プレゼンテーション）<br><br>12.～13. リエゾン精神看護の理論と実際<br>・リエゾン精神医学・看護成立の歴史、定義、位置づけ、目的、機能について理解する。<br>・コンサルテーションの理論と実際：コンサルテーションの実際について事例を通して学ぶ。<br><br>14.～15. プレゼンテーション・まとめ<br>・各自の課題に沿って、プレゼンテーションをし、ディスカッションを行い、様々な理論モデルを理解し、対象や現象に合わせたアプローチの理論的枠組みの実践への活用や課題について検討する。 |
| 評価方法<br>評価基準 | 授業参加態度、プレゼンテーション、レポートなどを合わせて総合的に評価する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教科書 | なし | 参考書等 | 配付資料<br>参考文献についてはその都度提示する。 |